

保健だより

子宮頸がん予防ワクチン(HPV) ワクチン接種について

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。

日本では毎年約1.1万人の女性がかかる病気で、さらに約2,900人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

子宮頸がんの原因のほとんどが、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染によるものです。感染は主に性的接触によって起こり、女性の多くが一生に一度は感染すると言われています。感染しても、ほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人でがんにかかってしまうことがあります。

HPV感染防止に有効なのが、HPVワクチンの接種です。ワクチンを接種することで大きな感染予防効果が期待できます。



令和5年度の勧奨対象者

- ・平成19年4月2日～平成23年4月1日生の女子<定期接種対象者>
- ・平成9年4月2日～平成19年4月1日生の女子<キャッチアップ接種対象者>
積極的勧奨の差控えにより、接種機会を逃した方に接種機会をご提供します
(令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3年間)

※転入された方で接種を受けていない方、小学6年生で接種を希望される場合は依頼書を発行いたしますのでご連絡ください。

対象者と接種期限

生年月日	接種期限
平成9年4月2日～平成21年4月1日生	令和7年3月31日
平成21年4月2日～平成22年4月1日生	令和8年3月31日
平成22年4月2日～平成23年4月1日生	令和9年3月31日
平成23年4月2日～平成24年4月1日生	令和10年3月31日

接種費用

無料(公費負担)

令和4年3月31日までに自費で子宮頸がん(HPV)予防ワクチンの接種を受けた方へ

平成9年度生まれから平成16年度生まれの女性で、定期接種の対象年齢を過ぎて子宮頸がん(HPV)予防ワクチンを自費で受けた方に接種費用の払い戻しを行います。

対象となる方は子育て福祉健康課へ払い戻しの申請にお越しください。

- 申請に必要な書類：接種記録が確認できる書類(母子健康手帳等)・領収書・通帳

HPVワクチンの効果

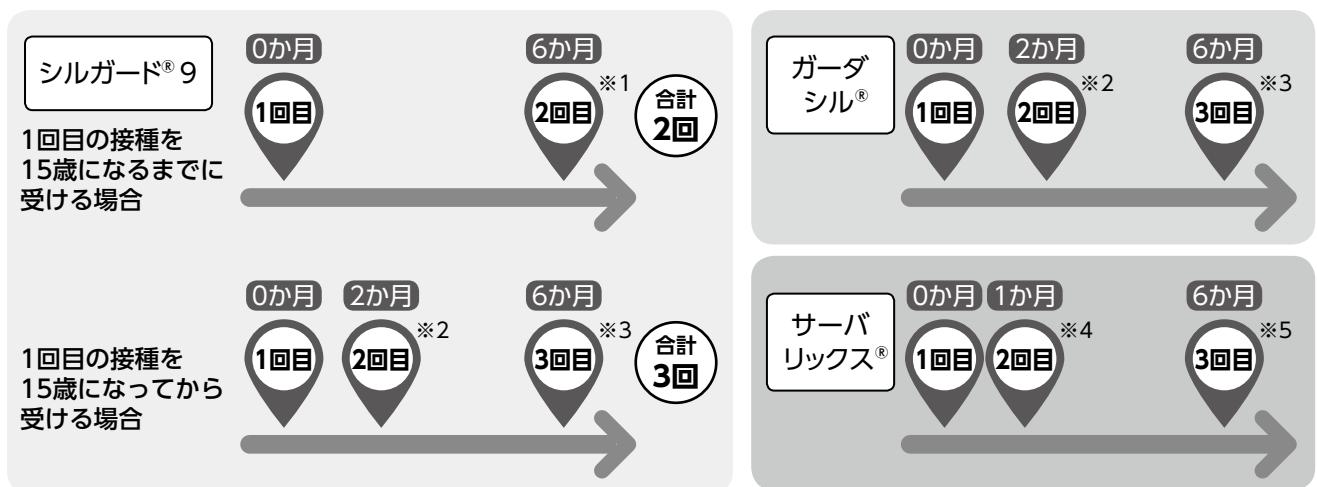
HPVの中には子宮頸がんを起こしやすい種類のものがあります。

現在、日本において受けられるワクチンは、防ぐことのできるHPVの種類によって、2価ワクチン(サーバリックス)、4価ワクチン(ガーダシル)、9価ワクチン(シルガード9)の3種類があります。

サーバリックスおよびガーダシルは、子宮頸がんを起こしやすい種類であるHPV16型と18型を防ぐことができ、そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。

シルガード9はHPV16型と18型に加え、他の5種類のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの80～90%を防ぎます。

一般的な接種スケジュール



- ※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目接種が必要になります。
- ※2.3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目のか月と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。
- ※4.5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※4)、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月以上(※5)あけます。

子宮頸がん検診を受けましょう

子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)は、全てのHPVの感染を防ぐものではありません。ワクチン接種に加えて、定期的に子宮頸がん検診を受けることが大切です。

20歳以上の女性の方は町が実施している子宮頸がん検診を受けることができます。4月に受診券(A4サイズ・薄緑色)をお送りしています。令和6年2月末まで以下の医療機関で実施していますので、受診券と健康保険証をご持参のうえ受診してください。

子宮頸がん検診実施医療機関

- ・ひだか病院 (TEL: 22・1111)
- ・天津医院 (TEL: 22・5351)
- ・日高マタニティクリニック (TEL: 24・1103)

